

創立 1986 年

2021～2022年度クラブ目標

『新たな奉仕に踏み出そう
ロータリーの次の百年のために』

会長 鈴木 孝 幸
幹事 須藤 正 樹



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

2021～22年度国際ロータリーテーマ

第1699回例会

令和4年2月17日(12:30～13:30)



○ソング

- 我等の生業

○スマイルBOX

- 鈴木孝幸会長（鶴丸委員長、卓話ありがとうございました。本日ZOOM例会に出席いただいた皆様ありがとうございました。我々の出来る限りのロータリー活動を継続していきましょう！）
- 永野文雄会員（鶴丸会員さん卓話ありがとうございました。）
- 金田昇会員（鶴丸会員卓話ありがとうございました。いよいよ春めいてきました。早く対面例会が出来ますように。）
- 佐藤清作会員（先週はオンライン例会に初めて出席できました。今日はSAAの当番です。うまくいきます様に。）
- 大住由香里会員（鶴丸さん卓話ありがとうございました。日中だと職場がにぎわっておりましてすみません。マイクのような環境整備に務めます。）

▶第1699回例会出席状況 (R4年2月17日)

Ⓐ 出席免除を受けていない正会員数	51名
Ⓑ 出席免除の適用正会員数	14名
Ⓓ 全正会員数	65名
Ⓒ ①の出席者数	24名
Ⓔ ①のメイクアップ者数	5名
Ⓕ ②の出席者数	5名
Ⓖ = ③ + ④ + ⑤ (メイクアップ補填後の出席会員数)	34名
Ⓗ = ⑥ - (⑦ - ⑧)	56
Ⓘ = ⑥ / ⑨ × 100 (例会出席率)	60.7%



司会進行 副SAA 佐藤清作会員

▶例会日：第1・第3木曜日(12:30) その他の木曜日(18:30～19:30)

▶例会場：白河市新白河駅前 東京第一ホテル新白河

▶事務局：〒961-0957 福島県白河市道場小路96-5(白河商工会議所内) ☎23-3101 FAX22-1300

本日のプログラム

■会長の時間

鈴木孝幸会長



皆さん、こんにちは。本日、西クラブ2回目の完全ズーム例会にご参加いただきましてありがとうございます。先週は初めてのズーム例会ながら、半数以上の会員の方々にご参加いただきまして大変ありがとうございました。高畠エレクトの卓話のいかもあり、大変充実した例会になったと思っています。また、例会の楽しみの一つに食事がありますが、ズーム例会ですと食事が出ませんが、例会に参加していただいた会員の皆様には、後日食事券を配布いたします。東京第一の1階の「セゾン」で使える食事券であります。複数枚ためてご家族とランチなども良いのかと思いますので、楽しみにしててください。県内の蔓延防止ですけども、3月6日までの2週間の延期が検討されるようであります。すると、3月3日の第一例会まで、多分このようなズームによる例会となることと思います。今朝に新聞にも国会もリモートを検討しているというふうに掲載されていまして、本当にこのような状態は致し方ないと感じています。もうしばらく我慢いたしましょう。実は、私の会社に郡山から通う職員がおりまして、そのお子さんが通う郡山の小学校でやはりクラスターが発生して学級閉鎖となりました。生徒さんは自宅待機ということになったんですけども、濃厚接触者の疑いのある中でPCR検査は実施されずに、また検査の予定も示されないままに、2月16日から20日までの5日間の経過の観察も変化がなければ登校してくださいというふうな連絡がありました。これはつまり、多分郡山市が濃厚接触者の数が多すぎてPCR検査ができない、それほど逼迫した状態まできているのかなと感じた次第であります。当然、我が社の職員は感染の可能性がありますので、白河市さんから配布されたPCRキットを2組職員に持たせまして、一つはお子さん、もう一つは職員の2人を検査してもらい結果が陰性が出るまで、その間リモートワークを継続してもらおうというふうに指示を出した次第であります。感染すると感染予防のために仕事が犠牲になるので、しっかりと感染対策は継続していきたいと改めて思いました。皆さんも、気を抜かずくれぐれもお気を付けください。よろしくお願いいたします。話は変わるんですけども、こんな世知辛い世の中ですけども北京オリンピック、私たちみんなを楽しませてくれております。ちなみに、日本から参加した選手の数124

人で、監督、コーチを入れると262人もの参加人数になるようであります。海外で開催される冬季オリンピックでは、過去最多の参加者数なんだそうであります。話題のROCのワリエワのドーピング問題とか、スキージャンプのウェア検査については、まったくもって不可解なこともあるんですけども、メダルを取った選手も取れなかった選手も東京オリンピック同様、この疲弊した時期に私たちに沢山の感動を与えてくれて、そして勇気づけられたのは間違いがないと思います。ありがたいことあります。私事なんですけども、最近私はスキーでこぶを練習していますが、フリースタイルのモーグルを改めて見ますと、全くの異次元であります。銅メダルを取った堀島選手ですね。この競技の日本初メダルということで、私も見習って、見習っても全然駄目なんですけど、もっと今シーズン練習したいなと励みになりました。話は変わって、ホームミーティングの話であります。今はホームミーティングの時期でありまして、年次計画書でも謳っておりますが、来月の3月の3週4週がホームミーティングの報告会となっております。先日、3月の例会案内を皆様にご連絡したところなんですけども、蔓延防止の関係上そのプログラムにはホームミーティングの発表は入れておりません。しかし、3月6日以降、蔓延防止が解除になるとすればホームミーティングが開催できる可能性が出てきますので、その際は今期一度もホームミーティングを開催していませんので、出来る限り開催に向けて臨機応変に対応していきたいなと思っております。最後になりますが、今日のプログラムは鶴丸会員の卓話であります。親睦委員長として今年頑張っていた鶴丸会員ですが、実はロータリークラブの活動以外にも様々な活動をなされているようであります。今日は、鶴丸会員の知られざる姿を垣間見ることができるかもしれません。卓話楽しみにしておりますので、よろしくお願いいたします。それでは、この辺で会長の時間を終わります。今日はよろしくお願いいたします。

■幹事報告

須藤正樹幹事



- 公財) ロータリー米山記念奨学会 事務局長 柚木裕子：ハイライトよねやま263
- 地区事務所 芳賀美宝子：ローターアクト研修会Web (ZOOM) 開催のご

案内について

- ロータリーの友事務所代表理事、ロータリーの友委員会委員長：「ロータリーの友」購読料改定のお知らせ
- ガバナー事務所 事務局 岡山直緒美：下期地区賦課金

についての確認

■本日のプログラム

会員卓話

○鶴丸彰紀会員



鶴丸でございます。本日は、よろしくお願ひいたします。このような場で初めて、ズームでこんなお話をさせていただくのも始めてなんです、是非良い機会をいただいたと思いますのでよろしくお願ひいたします。本日、お話の機会をいただくにあたりまして、会長のほうからご指示いただきまして、ただ何を私が話せばいいのか、先日の高畠さんのお話のように話すべきところって何を話したらいいんですか、自己紹介的な卓話はもうやってしまったんですがというご相談をしたんですが。なんで普段そんなロータリーに元気でロータリーがなんでそんなに大好きなのと会長から言っていただきまして、何故鶴丸があほみたいでロータリーを楽しんでいるかという話をしろとご指示をいただきましたので、この時間を使ってお話をさせていただきます。会長のほうからは、人生の半生を語れる話もありましたので、途中わたくしがロータリーに入る前の段階も含めて暴露というか、自己開示をさせていただければと思います。私の人生を変えた2つのグループということで、この今日の画面に出ていると思いますけど、わたくしは非常にこのロータリークラブに入会させていただいて、活動をさせていただけることにすごく感謝をしています。知ってる方も多いと思うんですけど、ロータリーに入会する前の私というのは、本当になんか仕事人間というか仕事しかしてない、黙々と仕事してたということで。また、白河には親、親戚も当然いません。神奈川県横浜のほうから来ておりますので友達もいない。飲みに行くのも知り合いもないような、非常に寂しい人生を歩んでおりました。ここで、仕事しかしていない理由というのはあったんですけど、これは後程お話ししますが本当にこの寂しい人生の中で、その時のお客様でした松永さんですね。松永さんのほうに、だったらいいグループがあるよと紹介をしていただき、飲みに行きたいとか友達作りたいたいというんだったら、この紙書いていって渡された紙には入会申込書というように書いてありまして。この時ロータリークラブというのも、他にもライオンズクラブですとかそういったものに関しても、あまり興味なく知識もなくおりましたのでどんなものだろうと、一回見学行かせてくださいというのがロータリーに入らせていただいた第一歩目で

した。今はなき松永さんという怒られてしまうと思うんですが、最近お忙しいみたいでロータリーの会場ではなかなかお会いできないんですけれども、この松永さんと一緒に紹介者となっていただきました鈴木孝幸会長には今でも深く感謝をしております。頭が上がらないと思います。半生を綴るということであつたんですが、わたくし鶴丸彰紀は神奈川県横浜市で生まれました。今現在、白河で「バッテリーのお医者さん ミリオンテック」という会社をやらせていただいております。これは工場がよく使われる大きいバッテリー。トラックですとか建設機械、また車のバッテリーもやらせてはいただいておりますが、メインでやっておりますのは電動のフォークリフトですとか無人搬送車、AGVとか言われる種類ですね。こういったものの電池で動く車両の電池のメンテナンスをやらせていただいております。2001年創業です。22年目に今入ったところになります。白河で沢山お世話になって20年になりますが、生まれは神奈川県横浜市です。小さい頃に遡りますと、幼稚園とか小学校の頃から段ボールをくり抜いてロボットという形で、自分が入れるサイズのロボットを作って、中に入ってガシャンとなるような感じのものを作ったり、プラモデルとかというよりはバルサ板にモーターとかギアとかキャタピラとかをくっつけてどこでも走れる車を作るなんていう、ものを作るというのにその頃に目覚めた少年時代でした。車ですとかそういったものを自分で作るんですけども、それこそどれだけ早く走れるかですとか、滑り台とか階段とかを上り下りできるような車みたいな、なんか他の近所の友達にも何人かでみんなで競い合ってたんですけども、そういう車を作ったりするのが楽しみで、そこからものづくりにはまったんだと思います。小さい頃から理系の人間だと私は思いこんでいたんですけども、理由としては多分理系と言ってた方がもてるからとかの理由があるんじゃないかと思っています。ただ、高校時代から大学に入学する際に実は大失敗を起こしまして、大学入試に落ちちゃいました。ここでなんで落ちたのかなと思った時に、実は理数系、理科と英語と数学とかの受験科目あるんですが、実は数学が私は大の苦手だったということに受験が終わってから気付きました。受験の時、高校の中ではそんなに不得意だとは思っていませんでした。やっぱり受験生の中に入ってみる



と全然足りなかったんだなと思ひ知らされた節があります。ただ、この後に大学に入るために文系に転向したんですね。この文系に転向する際に予備校でテストを受けてみたら、国語の成績がめちゃくちゃ良いことに初めて気づいて、だったら文系で取りあえず大学入っちゃおうということで入った大学が横浜商科大学という大学です。実は白河に来て、つい先日何年か前ですね気付いたんですが、高畠裕さんの後輩にあたるということに、大学時代にはお会いしたことはないんですけども、高畠裕さんの後輩にあたるということが発覚いたしました。大学時代は非常に遊びまくり、横浜のはまっこというか湘南ボーイ的に遊び回っていたんですけども、就職の際に「株式会社キーエンス」という会社に入社をさせていただきました。この「キーエンス」に入る際にも、その頃バブルの一番最後だったということもありますが、受けた会社ほとんど受かってましたので、強気だったのかもしれませんが10年で会社を辞めますという面接の時に宣言をして、それで採っていただきました。会社を辞めることが目的だったわけじゃないので、10年経ったら独立したいんですと。小さくてもいいから一国一城の主を私はやってみたいんですと宣言して、それで採っていただくことができましたので「キーエンス」という会社に入りました。この「キーエンス」という会社、一般にはあまり馴染みないんですけども、私が入社した頃とかは日本で一番株価の高い会社ということで、「任天堂」さんですとか「セブンイレブン」とかよりも株価が高い。今現在でも、日本の株価ではトップ10に必ずいて、多分今3位くらいだと思うんですけども、株式面では有名な電気のメーカーの会社です。この会社に入らせていただいて、埼玉県浦和市の新入社員の時から始まりまして、神奈川県、静岡県と回り、転勤ですね。その後、郡山市に転勤になったところから東北にご縁をいただくことになりました。次に、宮城県の仙台市にも郡山の後住人だんですけども、そこで会社のほうを無事卒業させていただき、10年で辞めることができなくて11年くらい経ってしまったんですけども、そここのところ白河のほうに居を移すということで白河に來させていただきます。この白河に來た理由というのがよく皆さんに聞かれるんですけども、営業時代、郡山で営業で回ってる時の担当営業地区の一つが白河だったんです。この白河というのは、私がいろいろ見てきた地区の中で、子育てがしやすく生活しやすい場所だなと感じていました。それで仙台で会社を辞めた時に、どこに住む、どこで会社のほうを發展させていくかと考えた時に、是非白河に住みたいなと思ってこの地を選ばせていただきました。白

河ってよく皆さんに言われるんですけども、とても私は良い地区だと良い場所だと思ってました。今言いました子育てとか生活、ちょっと行けば自然が沢山ありますし、そこそこ便利ですし、またビジネス面で見ても実は東北と関東の境目。また、都市という意味でも東京と仙台からちょうど中間にあたる場所。こういう場所というのは、外に対して攻めやすく自分がそこにいる分には地元を守りやすい場所なんだろうなと。白河というのは、小さい会社が本拠地を置くにはとてもいい場所だと判断をしましたし、今現在も判断しています。そんな感じで白河に住むことになりました。半生を語る部分でこの部分の話させていただきます。年表のほうで1999年に長女誕生（静岡県）というふうになっておりまして、その後2001年に「バッテリーの医者さん ミリオンテック」設立をさせていただきました。ここら辺は順調に仕事することができ、大手のお客さん「住友ゴム」さんですとか「大日本印刷」様ですとか「三菱マテリアル」様とかをお客様ということにすることができて順調に伸ばしていました。2006年ですね、長男が白河で誕生します。非常に喜んだのもつかの間で、ちょっとここら辺から人生的に暗くなってく時期に突入します。2006年の3月に長男が誕生したんですが、翌々月の5月初めに実家横浜におります母親が倒れました。脳内出血でした。白河にもう居を構えて5年間やらせていただいていた中で、横浜にいる母の介護というものが始まり、今更実家に戻るという選択も難しい。でも、半身不随の母でするので横浜に兄弟、姉がいたんですけどもその姉と協力して介護をするということで、実は1か月のうちの2週間は横浜に帰って介護をし、残り2週間は姉に任せて私は白河に帰ってきて仕事をするという生活をずっと送っていました。介護で10年ちょっとですね、後半のほうは老人ホームのほうに入れましたので大丈夫になったんですけども。前半は2週間白河、2週間横浜という生活を何年も続けておりました。妻と子供も母の倒れたすぐ後ですね、横浜のほうに転居させてその2週間の介護終わって白河に帰ってくると、私はずっと単身赴任という形で、2週間で1か月分の売り上げを上げないと生活もままならない。親の介護のお金もかかりますし、また月に2回往復する移動の交通費ですとか、当然白河の家賃その他払うためには売り上げを落とすわけにはいかないということで、一番あの頃がきつい頃でしたね。そんな生活を続けておりましたので、あの陽気な松永さんにも心配されるくらいに私生活というものがほとんどない状態。先程、飲みに行く友達もいないと言ってましたけど、それよりももう時間すらないような状態でずっと過ごしてきました。この理由

で、もともと白河選んだのは仕事のいいとか住みたいという場所だったからという理由だったので、実際に仕事以外の部分では親、親戚もいなければ、本当に知り合い一人、友達どころか知り合いも一人もない状態で白河に来てしまったので、お客さんとの繋がりしかない状況だったんですね。そんなこんなで横浜に帰れば友達はあるんですけども、白河を寂しい時期を過ごした時に、この白河西ロータリークラブのご紹介をいただき、2018年夏に入会をさせていただくことになりました。この2018年から最初に親睦委員会。これは堀田委員長が沢山いろんな事を教えてくれて、あとは運天さんとかゴルフとか、私生活とかプライベートのことまでいろいろと世話焼いていただきまして、18年19年は親睦委員ということでロータリークラブを楽しませていただいたんですが、この堀田さんと運天さんにも私は頭が上がりませんが、2020年にSAAをやらせていただきました。この時の委員長が運天さんで、今年めでたく親睦の委員長を仰せつからせていただきまして、ここでロータリーに少しは貢献できるんじゃないかなと考えております。まだまだ足りないことばかりで教えてもらいながら進めている状況ですけども、皆さんの協力を非常に日頃から感謝しております。先程、会長からお話ありましたが、この最初にありました2つのグループ、私の人生を変えた2つのグループの中で、白河西ロータリークラブに入らせていただいたということで、母のほうも、父も他界いたしまして、白河に骨をうずめるつもりで頑張らせていただいているタイミングですので、ちょうどこのロータリークラブの活動というのが私の今の原動力。また、いろんな皆さんに飲みに行く機会ですとかチャンスを提供しているんで、そこが私の生活の糧になっているので、これほど楽しく皆様の仲間に参加させていただいております。次に2018年、このロータリークラブに入らせていただいたんですが、ちょうどこの時に先程会長からお話がありましたもう一つのグループ。これが岡野塾というグループがあります。このグループに私は入らせて



いただきました。この岡野塾というグループをここでロータリーの皆様にご紹介したい。この3年以上この活動をやらせていただいているんですけども、この岡野塾というグループをロータリーに繋げることで、繋げると言ったらおかしいですね。

お互いに何か、〇〇するような活動として皆様にご紹介できればと思い、今日の時間を使わせていただきます。実はこの岡野誠という人が塾長としておりまして、その人を中心に2018年に白河で「グランディ」で初セミナーをやったことをきっかけに私が聴講させていただくようになりました。2019年にこの岡野塾メンター養成講座ということが始まりまして、実は福島県の中でも白河市だけに限らず、一番最初は郡山でスタートしましたので、福島市ですとか郡山市、会津のほうからも何十人も人が集まってこの岡野塾で勉強をしております。今現状第3期ということで、私0期も1期も2期もということで3年間続けて勉強させていただいてるんですけども、第3期の活動を続けております。その岡野塾の中で、そのメンター養成講座というのは我々大人が自分のために自己啓発も兼ねたり、企業の経営者の方、こちら辺ですと大きい目立つとこですと「アーバン」さんの社長ですとか、他の多くの企業の経営者さんがこの岡野塾というか岡野誠という人に対して勉強させていただいてるところは何社もあるんですけども、この岡野塾で繋がった会社が沢山私もあります。この活動の中で、子供たちに夢を与える活動。大人たちの自分たちの勉強ではなくて、地元福島県の子供たちを応援する活動ということで夢活、夢の活動ですね。夢活というものが現在スタートしております。これは今、岡野誠は郡山でセミナーはスタートしたんですけども、今現在は白河市に事務所を持ってきて、この2年半は西郷から始まり今現在も白河市に事務所を構えて2週間白河にいて、月のうちですね。残りの2週間、本社のある愛知県の名古屋に戻るような、私もちょっと身に覚えがあるようなそんな活動をずっと続けてくれています。この岡野誠というのは、名古屋でこういうセミナー等を始めるメンターという仕事を始めたんですが、もともと名古屋に自分の会社を持っている通常の会社の経営者でもあります。自分が売り上げどん底に落ち込んだ時に、そこから這い上がったという経験を皆に共有して日本を元気にしたい。自分がどん底から這い上がった経験で、人に何か恩を贈れるところがあるんじゃないかという思いから活動しています。この岡野誠さん、3月10日、来月の第2例会、夜の例会で白河西ロータリーのほうに呼ぶことが叶いました。夜の例会で卓話の時間をいただくということを会長他皆様からご許可いただきまして、皆様の前でお話することができと思います。せっかくなのでズームじゃなくてリアルで聞いてほしいとは願っていますが。この岡野誠、私がもう4年間はまっている人間なんですけれども、こちらのほうをご紹介できる機会をいただいたことに非常に感謝をし

ています。岡野さんの画面を出していただいたと思うんですが、岡野誠こんな感じの顔してます。私が口頭で紹介するよりも紹介のビデオ作ってもらいましたので、この場でちょっと画面を共有してる状態で皆様に見ていただければと思います。今、話しました一企業の経営者で自分がバブルの後半で減茶苦茶落ち込んで、もう廃業しようと思ったんですが、会社潰すにもお金がかかってそのお金すらないんだという状況で這い上がってきて、今現在は名古屋、大阪、東京、あと北海道なんかもありましたね。今このような岡野塾を続けてきて、今現状は福島県に根をおろしています。次にビデオがありますので、ちょっとご覧ください。



～～ビデオ上映～～

はい、ありがとうございます。皆様のところに音楽ですとか、そちらもちゃんと流れておりましたでしょうか。実は、わたくしがロータリーを並行してやっているもう一つの岡野塾というグループ。この岡野誠の夢活という子供たちの将来を応援する活動というものにも、今現在ロータリーとは別のもう一本の柱として力を入れさせていただいております。我々経営者のロータリーの集まりとして、この岡野誠がやっている子供たちへの応援を企業として応援することができれば、これから非常に白河の活性化に役に立つのではないかと考えています。子供たちと最近話をする機会が多いのでよく聞くんですけども、今白河で就職する子供たちが少ないとか、都会に出て行ってしまうとか、よくテレビとかでも言われることがあります。実際に子供たちは働く場所、学生時代に遊びに行くんだったら東京とか仙台とか憧れますけど、働く場所というのはやはり地元に戻ってきたいという子供たちは圧倒的に多いです。聞いていると、小中高生まで入れて。気持ちは地元に戻りたいという気持ちはあるんですけども、地元には仕事がないんだよとか、よく知らないんだよなというような、そこが原因になっているのではないかと私は考えています。地元の企業を知らないんですよ。地元にはどんな会社があって、どんな仕事をしているかということ全然知らないから、テレビとかで聞く東京の会社とか、なんか有名な会社みたいな事しか見てないで社会人になっていく。こういった子供たちに、実はこの夢活という活動の中で企業の協賛や応援をしていますが、必ず企業様にもVTRですとか、その場で話していただいたりということで、子供た

ちに地元の企業に馴染んでいただく。また、地元でどんな仕事をやっている企業があるのかとかいうことを知っていただく機会という意味でも、すごく良いチャンスなんだと私は考えています。子供たちに小さい頃から地元企業というのを知ってもらって、身近に感じてもらうことによってこれから5年後とか10年後の地元の就職希望者が増えるような活動に繋がっていかばとても有意義なんじゃないか。我々経営者もそういったところに協力を今することによって、将来ああこの会社、中学校の頃知ってるとか、こんなことをやってる会社興味あるなとか思ってもらえる機会にこの子供たちへの夢活がなってくれば、我々が地元の子供たちへ夢や希望を与える活動というふうに繋がっていくと思います。大人が子供たちに夢を見てもいいのかなと。それで、子供たちの夢が発展することの手伝いになるのであれば、是非白河西ロータリークラブ、また白河西に限らずロータリークラブの皆様にもこういう活動を今、白河市内でやっていますということを知っていただきたいなと思っております。是非、3月10日の夜の例会を楽しみにしててください。最後に、岡野誠のこの夢活の短いですけど紹介VTRがありますので、それを流して終わりにします。

～～VTR上映～～

ありがとうございます。今、ご紹介しましたのがこの岡野塾で昨年より子供たち向けにスタートしております夢活です。既に、もう棚倉ですとか鮫川町なんかは教育委員会様ですとか学校の校長先生ですとかが手を挙げて協賛していただき、その周りの企業も多数参加をいただいております。こういった活動が子供たちの活動を応援できる企業というのを、どんどんこれからも増やしていきたいと思っております。是非、興味がありましたら皆様も知っていただければ楽しいかと思っておりますので、よろしく願いいたします。では、長い話になってしまいましたがここで本日の話を終わらせていただきます。ご清聴、どうもありがとうございました。

○鈴木孝幸会長

はい、今日は時間ちょうどギリギリになりました。鶴丸会員、ありがとうございます。3月10日の岡野さんの講演、非常に人間力のある方ですね。本当にロータリーのこの30分そこそこの時間で、岡野さんの良さが全部出せるのかということ、ちょっと全然時間が足りないと思いますが、良い例会にしたいと思っておりますので、よろしくお伝えください。それでは、閉会いたします。